



## 『あらためて』

私はまだ自分自身の事をよく知りません。生きる事が、そのことを解決してゆく唯一の手立てなのだと思います。私は認知症になったことはありません。だから認知症の状態になった方の気持ちは解りません。でも認知症を解ろうとすることはできます。そのためにこの仕事をしています。ですから私は「人」から入ります。とてもシンプルな考え方です。「人が生きるため」と考えるとその言動は道理にあっています。これからもその考え方は普遍であり継続されてゆくでしょう。そしてグループホームの存在意義と存在価値を高め

てゆくための考え方でもあります。地域の拠点としても、看取りの拠点としても、生活を支援する拠点としても、認知症ケア専門の拠点としても、社会から認められる支援の在り方を追究していきましょう。感謝

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会  
会長 宮崎 直人

## 北海道認知症 地域コーディネーターとして

北海道認知症地域コーディネーター コーディネーター委員長  
[グループホームかしわ] 荒川 裕貴

**私**は当協会における第2回北海道認知症地域コーディネーター(以下コーディネーター)養成研修を受講しました。当初は、ブロック事務局にもなったばかりで、コーディネーター自体の存在にもはっきりとした認識はありませんでした。同じ日胆ブロックからも1期生の受講者が出ているにも関わらず、その存在の意味すらも認識しないまま、ブロックからの受講希望者がいなかったために、より高みを目指せる勉強が出来るならと上司である施設長に相談し受講させていただきました。

そんな始まりでしたが、今はというと3期生までの養成研修が修了し、計41名の仲間が(8/4現在は39名)が道内の会員事業所で、そして各ブロックで様々な活躍をされています。

今年度、当協会ではコーディネーターの活躍の場をと、春の総会で承認されてコーディネーター自らが動いて活動する機会をいただきました。仲間の中から各期の代表を選び、3人のメンバーでコーディネーター委員会を構成し、自らが企画した今年度のコーディネーターフォローアップ研修を先日修了し、次に控えるはフォローアップ研修で企画しました実践事例発表での報告と、会員向け研修の開催になりました。

間もなくご案内が届くとは思いますが、リーダー研修を経て本養成研修を終えた仲間が、今必要な研修は何かと必死に考え企画した研修が出来あがりました。皆様のところへ届くご案内を見ていただき、是非ご参加下さい。会費以上の価値のあるものにしていきたいと、現在も準備を進めております。

これから、各ブロックにおきましても私達「北海道認知症地域コーディネーター」が会員の皆様のために様々な場面で活動していくことが、当協会においての養成の成果にもなっていきますので、私達も持てる力を最大限に発揮していきたいと思っております。コーディネーターの仲間一同を代表して、あらためまして今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



# 『高齢者虐待の状況と介護職員のストレス』 十勝ブロック

**今** 年春の介護施設等での高齢者に対する虐待報道に改めて、道内のグループホームでも利用者の方々と関わる姿勢の持ち方を再認識しなければならないと痛感いたしました。

直ちに札幌等では虐待の要因と対策について研修会が実施され大勢の介護従事者や関係各所からの参加が多くあり、高齢者虐待に対する関心度の高さが窺えました。

北海道認知症グループホーム協会の研修部も、道内の協会のグループホームに対し緊急アンケートを実施、結果研修に対する要望ではターミナルケアに続いて虐待に対する研修の要望が多くありました。これに伴い十勝ブロックでも開催を決定、実施に向けて道協会と十勝高齢者グループホーム協会の協力も得て実施する運びとなりました。

平成24年7月15日、十勝管内のグループホーム、小規模多機能等の介護施設関係者、行政からの参加者等、十勝管外からの参加者を含め、日曜日にも関わらず160名の参加で、熱気ある研修会となりました。講師には十勝振興局社会福祉課の斉藤しのぶ氏が、「北海道と十勝の高齢者虐待の実態」を統計データ等を交え説明されました。

**北** 海道医療大学看護福祉部臨床福祉学科長・教授石川秀也氏から「高齢者虐待の状況～養介護施設従事者等による高齢者虐待を防ぐために～」と題し、虐待の定義、具体例を交え未然に防止するためのポイント、ケアの背景と改善のための指針を講義。

**道** 協会会長の宮崎直人氏が「職員のストレス」と題し、どのような時にストレスを感じるのか等、ストレスを受けやすい4タイプを紹介。いつもの笑いを交えながらの熱気ある講義を行って頂きました。

この研修から私達介護従事者は何を学び、その中からどのように高齢者と関わるか、どのように支援して行くべきかと、今後・・・将来のグループホームの在り方までも考えさせられました。私自身、介護保険法実施以来グループホームの増加が【ケアの質】の低下、ましてや介護従事者の質まで低下させているのでは?と考えさせられることがありました。どの事業所も雇用面では厳しい状況の中で、採用した職員で如何に【ケアの質】を上げていくかを試行錯誤しているでしょう。介護従事者とは多くのスキルを必要とされる専門職だと私は思っています。今介護従事者として働いている方々には

誇りと自信も持って働いて頂きたいと思います。その思いが【ケアの質】を上げ、そして高齢者との接し方まで変えて行くのではと考えます。

最後に夜勤明け、これから夜勤、休日で参加された方等、そして研修開催に向けて協力して下さった方々に・・・感謝の気持ちです。(木村)



# 『なくそう! 考えよう! 高齢者虐待』

道南ブロック

## IN HAKODATE

**本**年3月下旬、函館の認知症グループホームに於いて、介護職員による入居者への虐待があった事が報道され、我々関係者に衝撃が走りました。これは函館市が約半年前から調査、事実確認、指導、改善確認、利用者と家族、施設間での話し合いで一応の決着がついてからの報道であったが、同様のグループホームを運営する我々には全くの寝耳に水で、大変驚き、今後二度とこのような事が起きぬよう、対策を協議してきました。

北海道認知症グループホーム協会の行動は早く、札幌に於いて数回の虐待に関する研修を実施して頂きましたが、道南の会員からは事の重大さは理解しているものの、中々札幌まで職員の派遣が困難なので、是非道南でも開催してほしいと云う声が多く、道南ブロックとして6月23日(土)函館大学を会場に、「なくそう! 考えよう! 高齢者虐待」というテーマで、「函館認知症を支える家族の会」と合同で、高齢者介護に携わる施設職員や家族を対象とした研修を開催いたしました。

当日は約250名が参加され、函館市の保健福祉部長が市の高齢者虐待の対応状況や対応事例を紹介し、次いで当会名誉会長の林崎先生が高齢者福祉施設における虐待の構図について解説され、虐待に至る背景に、職員、職場リーダー、施設オーナーの連携不足や認知症高齢者に対する尊厳の欠如、福祉、介護の知識不足等を挙げられた。

そして、認知症介護の在り方として「介護する人は、認知症の人に育ててもらっているという意識を持って」と締めくくられた。

また、午後からは、函館大学准教授を司会に、林崎会長、認知症疾患センター谷内先生、がアドバイザーを務め、弁護士、老健管理者、地域包括、認知症を支える家族の会、グループホーム開設者らでパネルディスカッションを行い、それぞれの立場から発言されていました。

この研修の中で、参加者に高齢者虐待に係わる14項目のアンケートを実施し、125名(男40人、女85人)から早期回収し、速報値として一部結果を公表しました。例えば「GHなどの高齢者施設での介護の場合、どのような事がストレスや負担になると思うか(15項目から選択、複数回答あり)」では、「職員間の人間関係」が76人と一番多く、次いで「給与の不満」65人、「夜間の勤務体制への不安、不満」59人と続いていました。

また対利用者との係わりでは、「利用者からの暴力、暴言」58人、「意思疎通が困難」45人、管理者や経営者のマネジメント能力に対するストレスや不満も一定数ありました。

**私**たちは、この研修やアンケートの結果を踏まえ、「今、私たちは何を学び、何を実践したら、認知

症高齢者の方々と共に生活していけるのか、どうしたら認知症になっても虐待など受けずに、安心して暮らしていけるか」を改めて考えることができました。毎年毎年、新しい知識や技術も必要ですが、時に歩を止め、多くの人から色々な意見を聞き、本人だけではなく家族、介護職員を含めた3者が満足する介護はどのようにしたら実現できるか、今一度考えてみる必要があると感じました。(平山)



パネルディスカッション



川越 保健福祉部長



林崎 名誉会長



佐藤 函館認知症を支える家族の会 会長



# 新生町高齢者110番の家

オホーツクブロック

## ～誰もが参加できる夏祭りについて～

**6**月に盆踊り大会の準備委員会を立ち上げ、高校生ボランティアの実行委員長と副委員長を中心に、北見高齢者110番の家役員等と町内会長、地域の民生委員、地域食堂のボランティアさん、市内のGHの施設長や管理者、市内CMさん等が何度も話し合い、ときには焼肉をしながら楽しくお祭りの準備を進めていきました。

夏祭りのきっかけは拠点高齢者110番の家、地域食堂「きたほっと」がある新生町の、運営委員さんから「昔、盆踊り大会が開かれていたが、今はなくなってしまった。何とか盆踊りができると、もう一度元気な新生町になれるようでうれしいね」との意見が第一の始まりとなりました。

また、祭りの第一部での「ろうそく出せ」は、認知症の人々からも教えていただき昔、行われていた「日本の地域の行事を今の子供たちに伝承する」という目的で行う事となりました。お盆やご先祖様を敬う心や意味など、しっかりと教えて頂きました。

**小**さな子供たちは、あまり意味がわからない様子でしたが、将来大きくなった時に繋がっていくと思います。

今回初めての試みでしたが、実際に子供達から「楽しかった」「またやりたい」「こんなにおやつもらったの」と嬉しい楽しい声ばかり聞かれました。同行した大人からも「素敵な事ですね」「お礼伝える、礼儀を学べる機会になった」など聞かれました。大人も子供も楽しい思い出として残っていくように思います。

**子**供・仮装盆踊り大会では、グループホームの人を始め誰もが参加でき窓から見ていた高齢者も最後には踊りに参加する場面など、予想を大きく上回る方に参加いただけました。

自分も主催する側として浴衣姿の子供達やそれを見て目を細める地域の皆さんお年寄りの方などの優しい眼差しをいただき「盆踊りっていいもんだなー」と感じました。



夏祭りを支えるスタッフ

仮装盆踊りは、手作りのキャラクター、動物などかわいらしい方。女装をした方、様々な仮装の皆さんが集まって楽しいひと時でした。上手下手関係なく楽しい時間が過ごせました。盆踊りを初めて踊ったという子供もいて、日本のよき文化を知るきっかけになったと思います。

**目**後に、「ろうそく出せ出せよ」は自分も経験したことのない事で、準備からたくさんの皆様のアイデアや声を頂きました。そして、教えて下さる時は楽しそうにお話し下さいました。これは楽しい思い出だからだと思います。

仕事現場では得られない喜びを経験豊かな先輩方から教えていただき、また助けられ無事終わることができたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。(樋口)



盆踊りスタート



嬉しそうにお祭り会場へ向う子供達

# 「私もできる! 地域で見守るSOSネットワーク」

## 研修会開催(千歳市)

「私もできる! 地域で見守るSOSネットワーク」研修会開催(千歳市)千歳市内の新聞販売店、コンビニエンスストア、郵便局、ヤクルト販売店やバス、タクシー会社など84の団体が協力して行方不明になった認知症の方々を早期に発見し、保護する活動に取り組む千歳地域SOSネットワーク事業運営協議会の研修会が7月25日(水)千歳市民文化センター大会議室で開かれました。160人の地域住民をはじめ多くの方々が参加し、会場は満席状態。少子高齢化社会を迎え、認知症に対する地域の人々の関心の高さをうかがわせた。北海道認知症グループホーム協会の小原陽一副会長が旭川市のグループホーム入居者が行方不明となり、55日後に遺体で発見された事例と与えられた課

題や教訓そして認知症の人への声かけのポイントなどを話された。小原副会長は、「全国で1年間に2万人以上の高齢者が行方不明になっている」、認知症のお年寄りなどの行方不明の体験は「身も心も過酷な状況に本人や関係者が追い込まれる」と指摘された、入居者家族と施設の信頼関係と徘徊しても安心して生活ができる環境づくりが大切と話され、そのため「地域住民、行政、医療や施設の連携が重要」と訴えた。認知症のお年寄りが徘徊していた際の声かけのポイントとして、「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」に気をくばり、そのうえで「まずは見守り、取り囲むことで恐怖心を抱くので1人で声かけをし、後ろからは声をかけないで」と呼びかけました。(小原)

### 全国で1年間で2万人以上の人々が幾重不明になっている

全国の高齢者の行方不明(捜索依頼)数 平成16年警視庁調べ

	数	%	1日平均数
行方不明	23,668	100.0	64.8人
発見	17,842	75.4	48.9人
自分で帰宅	4,921	20.8	13.5人
死亡	548	1.8	1.5人
未発見	357	1.5	1.0人



## 総務部会よりお知らせ 永年勤続表彰

当協会では、会員事業所に勤務する職員等を対象に永年勤続表彰を行います。今年で第3回となりましたこの永年勤続表彰は、長年に亘り認知症介護の最前線で活躍している会員事業所の役員の方々を対象に、功績を讃え、今後の励みにと考えて実施しております。この表彰は、単に一企業に長年お勤めになった方の表彰ではなく、認知症共同生活介護に長年従事された方を対象に当協会として表彰させていただきます。尚、前年度までは当協会総会にて表彰式を行っていましたが、今年は事例発表北海道大会(恵庭市)にて表彰を行います。この大会には、できるだけ多くの方々にご参加いただき、表彰者の皆様を大勢の方々に祝福できればと考えております。各会員事業所におかれましては、もれなく対象者のご推薦を宜しくお願い申し上げます。(森山)

### 募集要項

1. 募集期間	● 平成24年8月1日から平成24年9月7日
2. 表彰対象者	● 一般社団法人北海道認知症グループホーム協会の正会員事業所の職員等であること (初回は申し込みの時点で会員であること) ● 勤続年数は、平成24年度の4月1日に認知症対応型共同生活介護に従事して満10年を超えた職員等を、10年ごとに表彰する ● 初回の表彰は満10年を超える者を表彰する
3. 表彰の種類	● 種類は以下のとおりとする。 ・満10年表彰 ... 表彰状      ・満20年表彰 ... 表彰状      ・満30年表彰 ... 表彰状 ・満40年表彰 ... 表彰状      ・満50年表彰 ... 表彰状
4. 勤務年数の計算	● 認知症対応型共同生活介護に従事した年数の合算を対象年数とする。詳細は以下の通りとする。 ・会員事業所において認知症対応型共同生活介護に従事した年数 ・他事業所(同一グループ、他企業、他組織を問わない)において認知症共同生活介護に従事していた年数 ・勤務形態は役員、正職員、準職員、パートを問わず、認知症対応型共同生活介護に従事した年数 ・産休、育児休暇、傷病、公傷、これに準ずる事柄の年数





# Run伴 tomo-rrrow 2012

## 北海道ステージを終えて

認知症フレンドシップクラブ 理事長

井出 訓

**2** 012年7月27日(金)の早朝、オレンジのTシャツに身を包む集団に見送られ、北海道庁赤レンガの東門前を第一走者がスタートしました。みんなの汗で徐々に重みを増していったタスキは、初日のゴールである登別、2日目のゴールである大岸を経由し、29日(日)の午後7時半過ぎ、待ち受ける大勢のオレンジ色に迎えられながら函館に無事ゴールすることができました。ご参加くださいました皆様、また、応援してくださいました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

2011年の夏に、函館から札幌に向けた300キロでタスキをつないだRun(伴)tomo-rrrow(ラントモ)を行ったあと、「来年もやりたい」「また走りたい」という声をたくさんいただいていた。そんな皆さん声を裏付けるように、200名弱の参加をいただいた昨年をはるかに上回る357名(238名のランナーと137名のサポーター)が、今年のラントモ2012に参加してくださいました。うれしいことに、今年のランナー登録者のうち42名は認知症の当事者の方々と、奈良の若年認知症サポートセンター「絆や」に集ってらっしゃる当事者の方々や、「ぼくが前を向いて歩く理由」の著者で認知症当事者でもある中村成信さん等、北海道外の当事者の方々をはじめ、ルート近郊にある施設等に暮らす方々も多数エントリーしてくださいました。それぞれにタスキをつないでくださいました。このことも、とても感謝でした。

**3** 日間の行程は、猛暑の予報通り昨年とは打って変わったかなり厳しいものとなりました。思いのほかアスファルトからの照り返しもきつく、自転車の伴走者も日焼けで真っ赤になりながら併走を続けました。ですが、太陽の暑さに負けないほど、今年は地域の方々の熱い思いを感じるラントモだったと思います。とある町を通過しているとき、地域の方々が沿道で声援を送ってくださっていました。その中の一人が掲げているメッセージボードに、私は目を奪われました。そこには「ありがとう。感謝しています。」と書かれていたのです。その方が誰なのか分かりません。もしかしたら、認知症の方のご家族なのかもしれません。ですが、このメッセージは、ラントモに笑顔で参加してくれた多くのランナーとサポーターに向けられたメッセージなのだと思うのです。地域に暮らす認知症の人、そのご家族を、地域の中で一緒

に支援していこうとする仲間への、感謝のメッセージなのだと思うのです。「地域の中で伴に生きていう」というラントモからのメッセージに対する、返信なのだと私は感じたのです。また苫小牧では、少年サッカーのチームがランナーとして参加していただきましたが、彼らの腕には認知症100万人サポーターのオレンジリングがしっかりと巻かれていました。ラントモへの参加を機に、サポーター研修を受けてくださったのです。それぞれの地域が、ラントモへの参加を通してそれぞれに認知症になっても安心して暮らしていける街をどうすれば築いていくことができるのかを、考え始めてきているのだと感じます。市長さんや議員さんなどの参加があった事も、そうした動きの表れなのだと考えています。

ラントモの目的は、私たちが暮らす地域の中には支えを必要としている認知症の人、その家族がたくさんいるということ、同じ地域に暮らす人達に知ってもらいたいということ。また、地域に暮らしている認知症の人やご家族にも、暮らしている地域の中に支援をしていこうとする仲間がたくさんいるということを知ってもらいたいということにあります。みんなでタスキをつないで走るの単純なことです。ですが、一人では成しえないことでも、人と人が繋がり合うことで成し得る力が宿っていくことを実感できるのです。認知症になっても安心して暮らしていける町づくりは、地域に暮らす人達が同じビジョンを描きながら繋がり合うことから始まるのだと考えています。ラントモ2012は、このあと東北、関東を走る予定です。ぜひご協力をお願いいたします。



編集後記

本日は8月19日(日)午後2時20分、函館地方は快晴、日差しも強く、気温30度、室温も大体同じくらいですが外気より湿度がある。大変暑く汗をかいています。私のいる事務所には誰もいない。誰もいない静かな室内でこの後記を書くべくPCに向かっています。誰もいない事をいいことに、エアコンのスイッチを入れた、設定温度を22度、強風にセットし「たばこ」なんかを吹かす。なんと警沢で無駄な事をしているのか、たくさんの方がいるのならまだしも、たった一人でこんなにエネルギーを無駄にして。今年は電力不足と云う事で世間は節電節電のオンパレードでどこに行っても暑い。折角休みに入った喫茶店も居心地が悪い。今さら誰のせいとは言えないが、設定温度28度は流石にこたえる。女性の方は平気みたいだが、男にとっては辛い夏である。

先日TVで、男は女性より筋肉があるので、動くで発熱し暑いのだと言っていた。さらに、人が一番活動しやすい温度は、体温より11度下が丁度良いそうだ。つまり体温36度の場合は25度が適正と言える。それを早くわかっていたら、こんなに苦しまずにすんだものを、いつも事務所内では女性職員とエアコンの事で言い争いになり、多勢に無勢でいつも敗退し、不快な思いをして涼しくなる時期をじっと待っていた。気がつくと8月も下旬を向かえ、各地の夏祭りも終わり、子供たちも新学期が始まるとうとしています。皆さん今年の夏はいかがでしたか? 入居者さんたち無事に過ごせましたか? 職員の皆さん本当に暑い中ご苦労様です。入居者さんの思い出と皆さんの思い出が一つになれば良いと思います。

この場であまり政治的な事は書きたくないのですが、今の国は、大変な岐路に立たされていると思います。そもそも国にお金が無いから仕方が無いという風潮で、デフレ脱却に向けた経済政策、金融政策を何もせず、消費増税では何も変わりません。他にも尖閣、竹島、オスプレイなど等。そうそう札幌方面の方、浅漬け大丈夫ですか? まだもう少し暑い日が続きますので食中毒に十分注意して行きましょう。そして秋には道内各地で研修やら大会が開催されます。どの研修も事務局の方々は苦勞をして講師を決定し、内容も趣向を凝らし少しでも認知症介護のサービスの質の向上に努めたい、という想いで企画しています。一人でも多くの皆さんの参加を希望しています。そして会場内で、多くの仲間たちと意見交換をし、苦勞を分かち合いたいと思っています。

取り留めなくだらだらと書いてしまいました。エアコンが効いて、少し寒くなってきました。この位で第6号の編集後記を終わりたいと思います。第7号も宜しくお願いします。(平山)